

【Ⅱ子どもをはじめ若い世代を対象】

劇団C4 事業詳細

事業名	劇団C4第30回記念公演「みすたあ・むう～んらいと」			交付決定額	300,000円
趣旨・目的	北九州を拠点に活動する劇団C4は、昨年度に旗揚げ25周年を迎え、今年は第30回記念公演を開催します。本公演の趣旨は、地元の中高生や若い世代に対して、舞台芸術や表現活動に対する興味や関心を高める機会を提供することです。観劇の楽しさを味わうだけでなく、実際の作品制作を体験できるプログラムを用意しています。平成28年に上演した「みすたあ・むう～んらいと」をリライトし、若い世代の参加者が公募を通じて集まり、稽古やスタッフワーク、テクニカルワークを経験しながら、新たな演劇作品を共同で創り上げます。この取り組みを通じて、若者たちに演劇の魅力と制作の楽しさを伝え、彼らの創造力を育むことを目指しています。				
実施内容	演目・曲目等				
	劇団C4第30回記念公演として上演された『みすたあ・むう～んらいと』は、2016年当時に劇団の代表であった故人・大福悟脚本で、劇団C4第23回公演として上演された作品の再演になります。本作は、同じく昨年秋に上演されたリーディング公演「どんと・すつつぷ・みー・なう!!」の続編にあたる作品で、劇団の最年長メンバーである河口紀代子の引退(するかも?)公演としても注目されており、彼女自身の人生を反映しながら、生きることをユーモアを交えて考えさせてくれる内容となっています。 【あらすじ】 葬祭プランナーの夏八木晴菜は、新人の助手に手を焼いています。新人とはいえ、彼は晴菜よりも二十歳以上年上の男性です。そんな中、生前葬の相談に訪れた鈴木すなおが、家族に相談せずに来たことからひと騒動が起こります。さらに、問題を抱えた女性が現れ、鈴木家は再び大騒動の渦に巻き込まれていきます。自称「そこそこやり手」の葬祭プランナー晴菜は、果たして鈴木家の問題を解決できるのでしょうか？ 2014年に上演され、好評だったリーディング公演「どんと・すつつぷ・みー・なう!!」を今秋に再演予定、そして続編である本作の『みすたあ・むう～んらいと』も同じく再演という形で、第30回記念の舞台公演としてお届けします。				
	構成・出演者・主なスタッフ等 / 展示作品の種類・点数、主な作品名・出品者名等				
	原案:大福悟／リライト・演出:児島誠／出演:河口玲子、河口紀代子、高橋ゆき、李慧瑛、前元優子、児島誠、橋本幸隆、金子久美、花川裕子(以上、劇団C4) 舞台監督・美術:森田正憲(株式会社 F.G.S)／音響:大谷正幸(九州音響)／照明:大久保望／ワークショップ参加者 ほか				
実施日時	2025年12月14日テクニカルワークショップ 2026年1月24日仮組みワークショップ 2026年 2月5日仕込み、6日リハーサル 7日～8日本番		実施回数	6回	
実施会場 (会場住所)	枝光本町商店街アイアンシアター (北九州市八幡東区枝光本町8-26)		参加人数	176名(ワークショップ参加者14名、公演来場者135名、劇団員・スタッフ等27名)	
実施の成果	助成金活用による工夫や実施の成果				
	TRYARTs助成金は、本事業において、若い世代が音響・照明・舞台美術などの舞台技術を実際に体験する機会を創出するための重要な役割を果たしました。助成金の充当により、外部の専門スタッフを講師として招聘することが可能となり、安全面への配慮と丁寧な指導体制のもとで、参加者が安心して技術を学び、実践的なスキルを身につける環境を整えることができました。 また、本公演に先立ち、昨年12月には、本番で使用する会場において舞台監督・舞台美術／照明／音響のテクニカルワークの講習を実施しました。実際の舞台環境で学ぶことで、参加者はより実践的な経験を積むことができ、舞台制作の理解を深める充実した学びの場となりました。さらに、会場使用料や機材使用料の一部を助成金で賄うことにより、事業全体の予算負担を軽減し、参加者にとってより価値の高い体験を提供することができました。 本公演の上演にあたっては、同ワークショップの参加者に舞台装置の製作や本番当日の照明・音響操作などを実際に体験してもらいました。特に本番当日のオペレーションには主に高校生が参加し、実際の公演を支える舞台技術に触れる機会となりました。これにより、舞台制作に関わる楽しさや達成感を体験的に伝えることができ、事前のワークショップで学んだ内容を実践の場で活かす機会を提供することができました。 加えて、助成金を活用することで一般前売りチケット価格を抑えることが可能となり、学生チケットや「年の差チケット」などの特別価格のチケットを設定しました。これにより、小学生から中学生・高校生、大学生までの若い世代の観客がより気軽に公演を鑑賞できる環境を整えることができ、地域の若者に舞台芸術へのアクセスを広げる取り組みにつながりました。これらの取り組みにより、若い世代が舞台芸術に多角的に関わる機会を創出し、本事業の目的である「若い世代に舞台芸術の魅力を伝える」という点において、一定の成果を得ることができたと考えています。				
	活動の様子				
					
最も注力した年齢層(計画)	18～39歳	参加者等の主な年齢層(実績)	12～17歳	18～39歳	40歳以上
(共催・後援・協賛関係機関がある場合)名称と役割	北九州市／北九州市教育委員会／プラスロボ				
その他特記事項					